

令和6年度 いのちの授業 事例集（高校）【地歴・公民】

管轄	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1 横須賀市	高 1	地歴 ・公民 ・社会	生命科学と倫理	「現代の諸課題と倫理」の單元における「生命科学と倫理」において、生命の大切さについて扱った。子どもを得る権利や胎児の人権について基本的な概念を理解したうえで、出生前診断や脳死、尊厳死について考えを深める活動を行った。 また、コロナ禍のワクチン不足といった課題を念頭に、医療資源の配分について、最大多数の最大幸福など概念を用いて話し合い活動を行った。	講師は本校教師である。授業で使用している教科書をもとに、資料も加味しながら活動を行った。
2 神奈川県	高 1	地歴 ・公民 ・社会	防災	生徒それぞれの自宅周辺の防災上の危険地域や避難場所の確認を行うことを通して、命を守るための防災意識の向上を図った。	ハザードマップポータルサイト 災害対応カードゲーム教材「クロスロード」
3 神奈川県	高 1	地歴 ・公民 ・社会	生存権	1 年次「公共」の授業において、社会権と違憲法令審査権の学習を踏まえて展開。「朝日訴訟」の経過を詳細に追った。 訴訟当時に適用されていた「マーケットバスケット方式」を検討することにより、「健康で文化的な最低限度の生活」とは何かを具体的に考え、「ただ生きる」とことと「よりよく生きる」ことの違いに思いをはせた。	○講師は本校職員 ○教材は、当時の新聞記事や訴訟資料等
4 神奈川県	高 2	地歴 ・公民 ・社会	国際紛争	公共の授業の一環で、国際紛争について、パレスチナ支援の専門家（国際NGO元職員）を招いて講演を行った。 ガザには普通の生活があったことや、「自分たちは大人になることが許されていない」という、現地の子供の声を紹介するとともに、この紛争によってどのように命が奪われているかを知る機会となった。なお、講演の様子は東京新聞に取り上げられた。	講師 元JVC職員
5 神奈川県	高 3	地歴 ・公民 ・社会	脳死と臓器移植について	NHKスペシャル『家族が最後を決めるとき』という番組を視聴し、もし家族が脳死になった場合に、あなたはその家族の臓器を「移植する/移植しない」という選択をするか、ということについて考えさせ、話し合いを行った。	（教材）NHKスペシャル『家族が最後を決めるとき』
6 神奈川県	高 1	地歴 ・公民 ・社会	災害図上訓練 (DIG研修)	本校から最寄り駅である戸塚駅までの通学路に、災害時に危険な箇所を白地図にマークさせた。また、土砂災害危険区域や河川、避難所など災害時に有用な箇所を地図を見て色分けさせた。これらの情報から、災害時に安全に移動できる経路を確認し、身を守るための地理的情報を理解する活動を行った。	白地図 防災マップ マジックペン等

7	神奈川県	高 1	地歴 ・公民 ・社会	「DIG（災害図上訓練）」	第 1 学年全クラスで本校周辺の災害図上訓練用の地図を用い、グループごとにDIGを実施した。本校周辺の危険箇所、北区の際に気を付けるべき場所、コンビニ・病院などの重要な施設の場所を確認し、全体で共有した。またそれらに基づき、災害時に負傷者がいた場合にどのようにして病院へ連れていくことが最善か、集団で帰宅する方法、学校で避難生活を送る場合に必要な物品やその調達方法などについてグループ討議を行い、全体で共有した。	教科担当者 災害図上訓練用地図
8	神奈川県	高複合	地歴 ・公民 ・社会	死生観	国際理解の授業の一環で世界の宗教の死生観について扱った。生徒それぞれの死生観の違いがあることをICT教材で共有し、世界でも信じる宗教によって命の捉え方の違いやそれにより弔いの方が全く異なることを学んだ。また、異宗教同士での殺し合いや紛争がなくなることにつれ、異なる文化や考えを持っている人々がどうしたら公平に共存できるのかについて考えを共有した。参加した生徒からは「宗教が一番大切だと言うけれどそれが原因で戦争を起こして家族や友人の命がなくなることは本当に一番大事なことのな疑問に思った」等の感想が寄せられた。	本講座は学校設定科目である。履修者は2年次または3年次相当の生徒が大多数である。
9	神奈川県	高 3	地歴 ・公民 ・社会	クローン人間について考える。	3年次以上対象の倫理の授業において、クローン人間の是非について考察する授業をおこなった。人間の生命に対する価値観や人間が生きることの意味を主体的、対話的に学習した。	『人生の教科書 [よのなかのルール]』筑摩書房
10	神奈川県	高 1	地歴 ・公民 ・社会	過去の災害から私たちにできることを考える。	地理総合「自然環境と防災」という単元で実践した。過去に日本でおこった自然災害の事例について学び、日本の自然環境から災害大国であることを理解したうえで、自らが居住する地域や行動範囲内の自然環境について、調べ学習をした。その中で自治体のハザードマップから自らの居住地域や行動範囲でおこりうる災害を予測し、実際にどのような行動をとることができるか、ハザードマップをもとに確認した。最後に防災・減災にむけての対策、自助・共助・公助の概念をもとに命を守るための手段について学んだ。	・高等学校『新地理総合』帝国書院 ・新詳地理資料『COMPLETE2024』
11	神奈川県	高 1	地歴 ・公民 ・社会	自然災害と防災「地震・津波への備え」	首都直下型地震、南海トラフ地震は30年以内に高い確率で起こるといわれている。そこで、地震・津波の発生に備えて、自分たちにできることは何かを考え、防災意識を高める授業を行った。地震に備えてしていること、津波から命を守るために大切なことを話し合った。普段から備えをしている生徒が少なかったため、やっておくべき大切な行動を理解した様子が見られた。「津波に備える」の動画では、東日本大震災の様子を視聴し、津波発生仕組みを理解した。生徒からは「自然の力の怖さを感じた」「間違った知識が多かった」という声が多く挙がった。次に重ねるハザードマップを確認し、学校や自宅の周辺にはどのような災害の可能性があるのかを調べた。	（参考資料）気象庁津波防災啓発動画「津波に備える」
12	神奈川県	高 3	地歴 ・公民 ・社会	地理総合「巨大な人口と暮らしの変化ー中国ー」	中国で行われていた一人っ子政策を題材とした授業内容で、その背景と当時の状況を学んだ。そのうえで、政策に反する場合はどうなのかを調べさせ、第2子以降の子供の扱い、親に対する罰の内容を確認した。特に第2子より後に生まれた子供はひどい扱いを受けるが、人口が増えすぎても飢餓が増える、などの内容から、国という大きな視点で生命を考えさせた。	中国の文化的背景もあわせて考えることで、それが政策として成り立つようにされていたことも学ぶことができ、地理的に見た「いのちのとらえ方」も感じることもできた。

13	神奈川県	高 2	地歴 ・公民 ・社会	憲法前文から考 える国際社会の 中の日本	公共の授業で、国際社会の中で平和を維持するために日本が果たすべき役割について学習した。日本国憲法前文の文章から積極的平和主義の考え方を読み取り、非武装かつ非軍事的に平和を維持していく方法について考察した。さらに、アフガニスタンで医療活動と水資源の開発支援活動に従事し、活動中に銃撃されて亡くなった医師の生き方を通して、平和のために働く責任とはどのようなものなのか、ワークシートにまとめた。	教育図書『高等学校 公共』
14	神奈川県	高 2	地歴 ・公民 ・社会	生命倫理	公共の授業において「生命倫理」の内容をディスカッション形式で取り扱った。遺伝子操作やデザイナーベビーなどのトピックスを紹介し、それが倫理的に正しいと考えるかを問い、クラス内でディスカッションを実施した。自らの感情を、倫理で学習した思想家の考えを援用して理論立てて議論することで、生きることの意味、障害や病気を持って生まれた人の生命について、多角的に考察させることができた。	
15	神奈川県	高 1	地歴 ・公民 ・社会	義務論と公正の 原理	トロッコ問題（ブレーキのないトロッコが暴走してきており、レバーを引くことで、別の線路に誘導し1人が死ぬが、レバーを引かなければ5人がトロッコにぶつかって死ぬ。）という命題や森鷗外の「高瀬舟」で病床の弟の安楽死を助けた喜助を題材にして、生徒同士での情報共有や言語活動を充実させることによって、生徒が自分事として命について考えを深めることができた。	1 年・「公共」・東京 書籍「公共」ほか
16	神奈川県	高 1	地歴 ・公民 ・社会	生命倫理	公共の時間に生命倫理の問題について、「脳死と臓器移植」、「安楽死」について取り扱った。 「脳死と臓器移植」では、「脳死での臓器提供の意思の有無」により、同じ脳死でも“人の死”になる場合と、ならない場合があるということを学んだ。人の死とは何なのか、そしてそれは誰が決めることなのか、ということについて授業の中で生徒と考えた。後半の「安楽死」では、安楽死賛成派と反対派、双方の意見を学習した。また安楽派をすでに認めている国のVTRを視聴した。その上で、日本でも安楽死を認めるべきか、認めるべきではないか、について各自で文章にまとめた。 この授業を通して、生徒は「死」から「命」というものについて考え、生命の尊さを学んだ様子だった。	特になし。 （普段授業で使用して いる教科書）
17	神奈川県	高 1	地歴 ・公民 ・社会	防災教育	地理総合の授業で年度末に自然災害・防災について取り扱う予定。直下型地震の代表例である兵庫県南部地震と海溝型地震の代表例である東北地方太平洋沖地震の2事例を通して、どのような原因で死亡した被災者が多かったのかを学習する。この学習を通して、災害時に自分や他人の命を守るためには、どのような行動をとることが重要かを学ぶ。	特になし。 （普段授業で使用して いる教科書）
18	神奈川県	高 2	地歴 ・公民 ・社会	様々な差別問題 とその対策	憲法の人権問題の具体例として性のマイノリティに関する情報を通じ、多様な価値観や偏見を乗り越え共生社会を構築する大切さを授業を通じて生徒たちの身近な課題として考えさせる授業を実施した。	現社教科書及び資料集

19	神奈川県	高 3	地歴 ・公民 ・社会	第二次世界大戦 と戦後の国際秩序	ナチ党によるホロコーストや広島・長崎への原子爆弾の投下について基礎知識を学び歴史的に考察した。 人権侵害の最たる例としての第二次世界大戦を学ぶ中で、現在の世界で起きているできごとを自分事として捉え、自分や自分の大切な人の命や日常を守るために重要なことについて考えをまとめた。	実教出版 「世界史探究」
20	神奈川県	高 2	地歴 ・公民 ・社会	出生前診断	着床前診断や出生前診断によって、誕生以前に性別や遺伝的疾患の有無を診断できるようになったが、これによって、胎児の状態を見て人工妊娠中絶を選択することも可能となり、生命の選別という社会的・倫理的な問題が生じている。生徒には、まず出生前診断についての知識を教授した。その上で、その是非について自分の意見を持ち、活発に議論を交わした。	講師：指導主事 教材：新版 公共
21	神奈川県	高 3	地歴 ・公民 ・社会	自分の生き方について	○NHK番組「ヒロイン誕生！ ドラマチックなオンナたち ジャーナリスト山本美香（後略）」を視聴し、関連web pageを参照して、ワークシートを作成した。現実を記録し発信する報道記者としての生き方とその死について考察した。	NHK番組「ヒロイン誕生！ドラマチックなオンナたち ジャーナリスト山本美香」 山本美香さんの関連Web page
22	神奈川県	高 1	地歴 ・公民 ・社会	いのちの輝きについて	○新聞記事「余命2週間の19歳 楽しいこといっぱい 家族と果たした約束」を読み、関連Web pageを確認しながらワークシートに取り組み、グループワークに取り組み、いのちについて考察した。	毎日新聞記事とweb page「余命2週間の19歳 楽しいこといっぱい 家族と果たした約束」
23	神奈川県	高 1	地歴 ・公民 ・社会	日露戦争	日露戦争開戦に関する複数の意見を読み、国の命運と人の命の重さについて考え、意見をまとめる。	
24	神奈川県	高 1	地歴 ・公民 ・社会	アジア・太平洋戦争	アジア・太平洋戦争を題材に、戦争中の兵士・民間人などの資料を読み、いのちの大切さについて学ぶ。 ・資料① 沖縄戦 ・資料② 学童疎開 ・資料③ 玉砕・特攻	
25	神奈川県	高複合	地歴 ・公民 ・社会	戦争と命・人権	第二次世界大戦中のヨーロッパを描いた映画を視聴した。内容は多くのユダヤ人の命を救った人物の行動を描いたもの。生徒たちは戦争下の状況において人命が軽視される様子や、それを救おうとする勇気ある行動に崇高さを感じていた。	担当は地歴公民科の教諭 視聴した映画は『シンドラマーのリスト』
26	神奈川県	高 3	地歴 ・公民 ・社会	生命と倫理	1.生殖医療と遺伝子操作、2.脳死臓器移植と再生医療、3.自己決定の尊重と末期医療について講義を行った。生殖補助医療の利用にあたって配慮すべきことについて考察した。また動画を視聴しながら、脳死や末期医療について考察した。	本校社会科教諭 動画：「ガタカ」、 「命のリレー」

27	神奈川県	高 1	地歴 ・公民 ・社会	持続可能な社会 づくりを考える	・地球環境問題、資源エネルギー問題、生命倫理、情報・国際社会の課題についてこれまで学んだ内容や知識をもとに考え、その内容・課題解決方法等自身の考えを述べる。	・『新公共』（実教出版） ・ワークシート（独自教材）
28	神奈川県	高 1	地歴 ・公民 ・社会	平和といのち	第2次世界大戦下における、日々脅威に晒されていた人々の生活を学習し、自身の立場に置き換えて状況をとらえ、命の大切さについて、考える機会を設けた。戦後80年という節目を目前にして、他国で起こる紛争に対して目を向け、平和といのちを守るために自分たちが成し得ることをグループで話し合わせることで、人種や言葉の違いを超えた異文化に対する理解、対立した際の話し合いによる解決の重要性が確認された。平和への意識を持ち続けることで、大切ないのちを守ることに繋がることを学ばせた。	山川出版社 歴史総合 近代から現代へ